

分担研究報告書

海外の医療通訳および通訳認証に関する調査研究

研究分担者 南谷かおり 大阪大学大学院医学系研究科国際・未来医療学（特任准教授（非常勤））

研究要旨

医療通訳の海外における育成と認証について調査し検討するために、通訳や翻訳の歴史が長い国をふくむ海外 22 カ国の医療通訳の教育と認証の実情を、文献と公開されている情報、聞き取り調査などにより比較検討した。通訳・翻訳の育成は、古くから大学などの教育機関に設置されている翻訳・通訳コースと、後に移民や難民などの人的交流に基づいて言葉や文化の壁を取り除くべく発展した通訳・翻訳教育があった。どちらもプロフェSSIONナルとして政府の関連組織や民間団体において認定や登録が行われ、22カ国中16カ国で通訳や翻訳の認証制度があった。しかし、医療通訳に関して特化した認証を行っている国は少なく、調査し得た範囲ではアメリカ、スイス、スウェーデンのみであった。医療通訳の育成には、総合的な翻訳者・通訳者、またはコミュニティー通訳者として認証された後に、必要性に応じて医療に関する研修を受けるか、通訳現場での経験により研鑽して、医療通訳として従事している国が一般的であった。

A. 研究目的

本研究の目的は、翻訳・通訳の歴史が長い海外の翻訳・通訳の教育と通訳認証を調査し、さらに、医療分野における通訳および認証の実情を明らかにすることである。

情報を加えて調査した。医療通訳に特化した認証を行っている国は少ないため、コミュニティー通訳・翻訳を含む各国の技能の認証について、2013年に行われた大規模な Jim Hlavac の先行研究²⁾に、以降の情報を加えて調査した。

B. 研究方法

1. 調査方法

2005年に行われた国際翻訳連盟 International Federation of Translators FIT の調査¹⁾をもとに、世界各国の翻訳・通訳教育と認証のアンケート調査や論文²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾に、公開されている翻訳通訳関連団体のホームページ上の情報^{6)~19)}や現地を訪問して聞いた

2. 調査対象国

1. 調査対象国は、通訳・翻訳認証が必要となった歴史的背景、人種、建国年数、使用言語の観点から10種類に分類した全22か国とした。
 1. 歴史ある多言語国家
オーストラリア
 2. 新大陸の英語使用国
カナダ、アメリカ合衆国
 3. 北ヨーロッパの多文化主義国家
スウェーデン、ノルウェー、フィンランド

4. 通訳・翻訳で歴史が長く移民政策も行っている西ヨーロッパの国
オーストリア、ベルギー、ドイツ、オランダ、スイス。
5. 南と東ヨーロッパ
スペイン、クロアチア、ウクライナ。
6. 東アジアの国
中国
7. ヨーロッパの英語使用国で古い制度をリフォーム及び拡大中
イギリス、アイルランド
8. アフリカ大陸で 11 公用語の多言語国家
南アフリカ共和国
9. ラテンアメリカ国
アルゼンチン、メキシコ、ブラジル
10. 中近東国
エジプト

3. 用語の説明

通訳・翻訳認証はアメリカ、カナダ、アジアとヨーロッパの大半の国では Certification と呼ばれているが、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ共和国では Accreditation を使用している。厳密には、個人に付与する Certification を認証する機関に与えるのが Accreditation であり、Accreditation の方が上位の位置づけとなる。また Licensure はある職種に与えられる国家認証となるが、使用者側がこれらを厳密に区別して使用していない場合もあるため、この研究では特に両者を区別せずに日本語で認証とした。

(倫理面への配慮)
該当事項なし。

C. 研究結果

1. 翻訳・通訳認証を行っている国について

“医療通訳”に特化した認証を行なっている国、コミュニティー通訳など“医療通訳以外を含めた通訳”として認証を行なっている国、“通訳の認証制度のない国”の3つに分け

ると以下であった。

- A) “医療通訳”に特化した認証制度を持つ”
アメリカ合衆国、スイス、スウェーデン
- B) “医療通訳以外の通訳を含めた通訳の認証制度を持つ国”
オーストラリア、カナダ、ノルウェー、フィンランド、オランダ、スペイン、ウクライナ、中国、イギリス、アイルランド、南アフリカ共和国、アルゼンチン、メキシコ、ブラジル
- C) 通訳の認証制度を持たない国“
オーストリア(司法通訳のみ認証あり)、ドイツ、ベルギー、スペイン、クロアチア、エジプト

2. 認証の前提条件

認証を行っているほぼ全ての国の前提条件は下記であった。

- ・最少年齢 (18,21,25 歳など)
- ・市民権
- ・居住地域
- ・法的能力
- ・前科・犯罪歴の無いこと

3. 認証機関と期間

40カ国の63の通訳・翻訳団体から回答が得られたアンケート調査で、政府機関が認証に関わっていると答えたのは25団体中8団体のみで、その認証は非政府機関とは対照的で、言語能力より通訳者の倫理面を重視し、更新制度はなく永久資格である場合が多かった。4団体のみが資格は更新性で期間は3年と答えたが、他には団体に所属している間は有効など、定期的な質の評価よりも団体への所属を条件としていた。これら63団体のうち34は自ら試験や認証を実施するわけではなく、すでに資格を持つ、もしくは無資格者でも経験値や教育レベルなど各団体が定める条件をクリアした翻訳者・通訳者を会員として登録している団体であった。

4. 認証試験

Stejskal(2005)が世界40カ国の63の通訳・翻訳団体に調べたところによると、試験の合格率は5~75%であり、平均は37%であった。団体の67%は実地試験を行っていない。受験資格は割合の多い順に通訳・翻訳経験(76%)、研修(68%)、プロフェッショナル会員(64%)、推薦(56%)、当該言語のスクリーニングテスト(36%)であった。

5. 各国における通訳・翻訳認証の現状

1) オーストラリア

公用語は英語で人口は約2413万人。

政府と全国8州が所有して任命された管理者が管理する非営利法人NAATI(The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)が通訳・通訳・手話において116言語における認証と60言語の試験を行っている。認証には4レベルあり、パラプロフェッショナル、プロフェッショナル、高度通訳者/会議通訳者、高度通訳者&通訳者(シニア)に分けられている。また、認証を得るには5つの方法があり、1) NAATIの試験に合格する 2) NAATIが認証する国内の施設の通訳・通訳コースを修了する 3) 海外(南アフリカ、バングラディッシュ、中国、インド、フィリピン、シンガポール、イギリス、ギリシャ、イラン、サウジアラビア、UAE)の教育機関の、通訳・通訳における高等教育の卒業資格と実務経験の証明 4) 海外の認可されたプロの通訳・通訳団体の会員である証拠を提出 5) 通訳・通訳教育の振替認定の証明(会議通訳のみ)が必要となる。

NAATIの受験資格は、パラプロフェッショナルの場合、オーストラリアの中等教育以上を修了して両言語に習熟していること。プロフェッショナル用の試験の場合、各分野で高等教育以上を修了しているか同言語のパラプロフェッショナル認定者である。

NAATIによる認証は3年毎の更新性で、年に40時間以上の実務および規定された講義

や活動で40ポイント以上を必要とする。

2) カナダ

公用語は英語とフランス語で人口は3616万人。

元々公用語が2言語あるため、大学レベルで通訳・通訳プログラムが多数存在し、住民や移民が使用するイヌイット語、中国語、パンジャビ語、イタリア語等はニーズが高い。国家認証は無く、1970年に設立された民間団体であるCTTIC(The Canadian Translators, Terminologists, and Interpreters Council)が通訳者、通訳者、ターミノロジスト(新しい用語を決定する専門家)、会議通訳者、司法通訳者の認証を与えていたが、2016年よりOCCI(The Ontario Council on Community Interpreting)がオンタリオ州でコミュニティー通訳者の認証を監督するようになり、通訳者を司法、保健医療、教育、社会福祉事業の分野で雇用する場合にオンタリオ州以外でも指標となりつつある。医療通訳者になるには、コミュニティー通訳の認定者であること、最低30時間の医療用語学習コースの修了と250時間の医療通訳実務経験が必要となる。

OCCIの受験資格は語学能力証明書、中等教育以上の修了者、CILISAT, ILSAT等の通訳試験合格者、北米のプロフェッショナル協会の会員等がある。認証の更新は、年間10時間の教育プログラム受講を要す。

3) アメリカ合衆国

公用語は英語で人口は3億875万人。

米国では、バイリンガルでトレーニングを受けていない素人通訳者の時代から、倫理性を持って行動する専門職として進展し、1994年にはThe National Council for Interpreting in Health Careが設立された。その後、2007年に医療通訳認証を策定するために国内の14の関連団体を追加してNCC(the National Coalition on Health Care Interpreter Certification)が創設されたが、2009年にIMIA(International Medical Interpreters Association)の特別部門として独立したThe National

Board of Certification for Medical Interpreters (National Board) が NCC から離脱して、独自に試験を作成し認証を行うようになった。これと並行して NCC のオリジナルメンバーの 13 人が 2009 年に非営利で中立的な CCHI (Commission for the Certification of Healthcare Interpreters) を設立し、2011 年から国家試験を行うようになった。しかし現時点では、認証制度は州ごとに異なり医療通訳者が活動するのに必須ではなく、病院や企業が雇用する際の指標として用いられている。

National Board も CCHI も受験資格はほぼ同じで、年齢は 18 歳以上、英語の一定以上の能力、高卒以上、最低 40 時間の医療通訳訓練が必要となる。National Board の試験はオンラインシステムで海外でも受験が可能である。CCHI は CoreCHI の筆記試験のみで資格を与えており、中国語、スペイン語、アラビア語のみ口頭試験を追加している。

更新は前者が 5 年で後者が 4 年である。

4) スウェーデン

公用語はスウェーデン語で人口は約 1000 万人。

ヨーロッパの中でも正式に多文化主義を掲げるスウェーデンは、すべての移民に対してコミュニティ通訳を含む通訳・翻訳サービスを提供している。正式に翻訳者として認証されるには The Swedish Legal, Financial and Administrative Services Agency (Kammarkollegiet) が行う試験に通らなければならない。合格率は 10% である。合格すれば 5 年更新性の公認翻訳者の称号が与えられ、プロフェッショナルとして登録され、証明書の翻訳はすべて公認翻訳者が行うことになる。

通訳者に関しては、1986 年からストックホルム大学に設立された the Tolk-och oversattarinstitutet (Institute for Interpretation and Translation Studies) が通訳トレーニングを全面的にまかされてきたが、現在では他にも大学における教育コースや成人教育センターの職業教育がその役目を担っている。Kammarkollegiet は認証通訳者をリスト化し

ており、Kammarkollegiet の監督下で高度な試験を合格した通訳者、または政府機関に支持された高度教育機関が提供する通訳プログラムを終了した修練済み通訳者が登録されている。そして定められた言語においては、特別認可された医療通訳と司法通訳も登録されている

5) ノルウェー

公用語はノルウェー語で人口は 5 2 1 万人。国が認定する公認翻訳者になるには、認定試験の前に 3 年間の大学教育が必要となった。翻訳認証に関しては以前から整備されていたが、対して通訳認証試験は、移民に対するコミュニティ通訳の必要性から 1990 年に初めて設けられた。後にアルバニア語、アラビア語、ペルシャ語、ソマリ語、トルコ語、ウルドゥー語が追加された。試験は最初オスロ大学の言語学科にて運営されていたが、2006 年からは在住資格を持つ移住者や移民の多様性に対応するために設立された Norwegian Directorate of Integration and Diversity (IMDi) が試験と登録を行っている。

会議通訳に関しては近隣のスウェーデン、フィンランド、デンマークとは異なり、フリーランサーが大部分を占めている。

6) フィンランド

公用語はフィンランド語とスウェーデン語 (全人口の約 4.5%) で人口は約 5 5 0 万人。認定の通訳者・翻訳者になるには文部省とフィンランドの言語研究所から任命された審査委員会が運営する試験に合格する必要がある。受験には EU または European Economic Area に居住していることが条件となる。

翻訳者・通訳者の養成はヘルシンキ、タンペレ、トゥルク、ヴァーサの 4 大学にトレーニングセンターがあり、大学院プログラムを提供している。また、フィンランドには成人教育センターが存在し、様々な職種の職業トレーニングを低価格で提供している。聞き取り調査を行ったタンペレ成人教育センター (TAKK) では、2005 年からコミュニティ通

訳者、2010年のEU加盟に伴い2015年からは司法通訳者の養成をおこなっている。医療通訳に関しては、養成コース内に週35時間の授業を7週間で設定している。コースを受講するには、最初に与えられた課題の評価、面接、筆記と口頭による語学試験があり、採用には応募者の適性も判断され、通訳に向いてない場合は他の職種を勧められる。他にも、労働可能な市場があるか、同言語で学習する生徒数が確保できているかなど、職業訓練校のため就職を目標とした教育を行っている。

コミュニティー通訳検定試験は約半年かかるプロセスであり、まずは受講者の行動や考え、通訳の振り返りに基づくレポートを通じて適性や倫理面が厳しく評価され、後に試験官立ち合いのもと、両言語の運用能力や専門用語の習得、通訳技術や対応能力を、模擬通訳や遠隔通訳にて合否が判定される。

7) オーストリア

公用語はドイツ語で人口は870万人。オーストリアはオーストリー・ハンガリー帝国時代から多言語国家であり、第二次世界大戦後にウィーンとグラーツ大学に2つの翻訳・通訳センターが設立され、後にインスブルック大学にも設けられた。こうして地方で教育された翻訳・通訳者が長年活躍しており、司法通訳以外は特に認定は存在しない。各大学の翻訳・通訳センターの教育を修了したことが公認の専門家の証であり、名刺にも記載できるようになっている。

司法通訳に関しては試験とプロとしての活動年数が求められ、5年で更新が必要となる。

8) ベルギー

公用語はオランダ語、フランス語、ドイツ語で人口は1135万人。2003年以前には翻訳者・通訳者の正式な認証は存在しなかった。ベルギーの法律では、裁判所に行く前に国民は自分の言語を申し込めるようになっており、そのため各裁判所は独自に通訳者を認定して登録しているが、正式な国家認定の翻訳者・通訳者はおらず、法律

によって守られていない。司法通訳者になるには21歳以上で犯罪歴が無いこと、言語能力の証明が必要となる。ベルギーにおける翻訳・通訳トレーニングの歴史は長く、アントワープ、ブリュッセル、ゲントの大学には定評のあるセンターが存在し、卒業者の技量は社会的に認知されている。センターでは公用語であるオランダ語とフランス語の他に、ヨーロッパに共通の英語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語がある。ゲントでは最近移民のためにチェコ語、ロシア語、トルコ語を追加した。

だが、ヨーロッパでメジャーな英語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語以外の言語を話す人口がブリュッセル、フランダース、ベルギー北部で増えるにつれ、2004年にコミュニティー通訳者の配置とその試験を設けることになった。受験資格は2言語における能力試験と102時間のトレーニングが必要で、試験にはサイトトランスレーション、通訳、倫理が含まれる。

9) ドイツ

公用語はドイツ語で人口は約8177万人。ドイツでは自称翻訳者・通訳者の活動が法的に認められているが、高等教育を受けた大学の翻訳・通訳センターの卒業者の方が好まれる傾向にある。翻訳・通訳センターはハイデルベルグ大学(設立1930年)、ライプチヒ(設立1953年)、マインツ-ゲルマースハイム(設立1947年)、ザールブリュッケン(設立1948年)に存在し、これらの成績証明書は広く認知されている。

ドイツでは、他のヨーロッパの国と同様に、翻訳・通訳は法的に認められた正式な職業ではないが、公式に認定された翻訳者・通訳者は法的に守られており、この称号を汚した場合には罰金を課せられる。

ドイツでは、全国で約20の高度教育機関が翻訳・通訳養成プログラムを提供している。また、約15の翻訳・通訳専門家協会があり、厳しい条件のもと会員登録を行っている。最大の協会は1955年に設立された国の機関であ

る BDU(The Federal Association of Interpreters and Translators)で、ベルリンの本部と 12 の地方支部を持ち、会員になるには、ドイツまたは国外でこのような翻訳・通訳コースを修了している必要がある。7500 人以上の会員が登録されており、これはドイツ全土の翻訳者、通訳者の 75% に及んでいる。

10) オランダ

公用語はオランダ語で人口は約 1710 万人。司法翻訳者・通訳者になるには、各自のオランダ語と対応言語の言語能力の証明と、品行方正であるという宣誓が必要となる。翻訳者・通訳者は試験に受かる必要はないが、法務省が認定するトレーニングを修了し、SIGV(Dutch Court Interpreters and Legal Translators Association)の会員でなければならない。

オランダには 1956 年から NGTV(the Netherlands Society of Translators and Interpreters)という協会があり、大学や多技術センターの翻訳・通訳コースを修了したプロフェッショナルが 70 言語で 1600 人の会員となっており、雇用の基準となっている。

オランダには大学や高等教育施設で 5 つの翻訳・通訳プログラムを提供しているところがあり、そこには昔から西ヨーロッパの言語が含まれていたが、最近では北アフリカ、中東、東ヨーロッパからの移住者用に言語が追加されるようになった。2001 年からは入国管理局や法務局のサポートにより司法通訳用のコミュニティ通訳トレーニングプログラムが設立され、2007 年には Sworn Translators and Interpreters の条例が通り、新たな部局が設けられた。これは 15 年ほど前からこれらの翻訳者・通訳者の成り手が増えてリスト化が必要になったからである。

11) スイス

スイスの公用語はイタリア語、オランダ語、フランス語で、人口は約 824 万人。

1999 年に政府の補助機関である INTERPRET (The Swiss Association for

Translation and Intercultural Mediation)が国内における多文化コミュニケーションを取り持つ通訳者のレベルの標準化を図る目的で設立され、通訳のトレーニングや認証のガイドラインを策定している。通訳者の認定は認定委員会が行っており、育成や運用は別の機関が担っているが、INTERPRET はこれらの組織の評価を行う上部組織である。各組織が行う認定試験内容、授業内容、講師や認定者のレベルチェック、育成機関や研修先の医療機関を調査し、問題があれば是正勧告を行う。また、2004 年より全国から年間 50~80 人の医療通訳者の認定を、書類審査と、電話連絡にて課題を与えて適切に通訳できるか判定する試験を通じて行っている。

受験希望者は年齢が 20 歳以上で言語能力がヨーロッパ基準の CEFR B2 以上、加えて 150 時間以上の教育訓練と最低 50 時間の異文化間実務通訳経験が必要となる。

認定者数は 2004 年以降で 1000 人以上にのぼり、2009 年からは cross-cultural translators として国が発行する ID カードが付与されるようになった。

12) スペイン

公用語はスペイン(カスティージャ)語だが、憲法では、バスク語(バスク州、ナバラ州北西部)、カタルーニャ語(カタルーニャ州、バレアレス州)、ガリシア語(ガリシア州)、バレンシア語(バレンシア州)、アラン語(カタルーニャ州)についても各自治州の憲章内容に沿って公用語として認めている。人口は約 4646 万人。

全国の複数の大学で 3~4 年の翻訳・通訳トレーニングプログラムが設定されており、さらに 5 つの大学においては Master コースも設けられている。

ドイツやオーストリアのように大学による資格証明が翻訳・通訳市場では専門家である基準となっており、唯一別の資格といえば、外務省と言語研究室から付与される宣誓翻訳

者・通訳者 Sworn Translators and Interpreters である。

13) クロアチア

公用語はクロアチア語で人口は約 428 万人。

クロアチアはハンガリー、スロバキア、ウクライナのように、大学の言語学科に翻訳・通訳プログラムを設置することが代々受け継がれているが、翻訳・通訳分野は整備されておらず、多くはこれらの大学の卒業生だが、正式なトレーニングや試験を受けていない者も少なくない。だが、大学の卒業証書を持っており通訳経験も 5 年以上あるプロフェッショナルだけを登録した協会があり、他に司法通訳について持続した教育と定期的な審査を行う 5 団体がある。また、会議通訳についても EU に参加したことで同時通訳のニーズが増え、2005 年にはザグレブ大学に養成コースが設置された。会議通訳者に関しては 1974 年から学会が設立されており、そこでは大学での 4~5 年コースを修了し、現場経験と推薦状を持つ通訳者を受け入れている。

14) ウクライナ

公用語はウクライナ語だが、ロシア語なども使用する。人口は 4250 万人。

The Ukraine Translators Association が試験を行っており、会員になるには厳格な審査を通らなければならない。通訳者に関しては、最低 100 時間の通訳実績と依頼人側からの推薦を必要とする。

15) 中国

公用語は漢語（中国語）で人口は約 13,76 億人。

最も権威のある翻訳・通訳技能の証明となる資格試験は CATTI (China Accreditation Test for Translators and Interpreters) で、合格すれば Translation and Interpretation Proficiency Qualification Certificate of the People's Republic of China という専門職としての国の公式な認定書が付与される。未だ認定書を持っていない者が翻訳・通訳をしても、違法とはならない

いが、この分野で職に就く場合は認定書が条件となる。認定には 4 レベルあり、低い順からレベル 3、レベル 2、レベル 1、シニアレベルとなっている。シニアレベルは、新人教育や指導にも携わる。

16) イギリス

公用語は英語（ウェールズ語、ゲール語等使用地域あり）で人口は 6511 万人。

イギリスでは多数の大学院レベルの翻訳・通訳プログラムが設けられており、そして通訳者・通訳者のための業界団体がいくつか存在する。国内の公共サービス通訳者の全国登録制度である NRPSI (National Register of Public Service Interpreters) は 1994 年に、刑事裁判のご意見番である英国審議会の「能力が証明された通訳者を国で登録すべき」という意見に基づき、1910 年創業の翻訳・通訳者以外も含め約 6000 人が登録されている CIoL (Chartered Institute of Linguists) の支持によって設立され、2011 年には非営利団体として独立した。101 言語にて 2350 人以上の通訳者が登録されている。

1986 年設立の ITI (Institute of Translation & Interpreting) には 100 以上の言語で通訳者と通訳者併せて約 3000 人以上が登録されている。イギリスではプロの通訳者・通訳者として働くために認定書は要求されないが、司法に関してはこの通りでない。ITI は経験値によって、ヨーロッパ中で英語を話す国の通訳・通訳者をレベル別に会員分けしている。ITI の資格会員は ITI によって認定されていない、つまり認定書を付与されているわけではないが、資格会員は翻訳物に対して質を認定する権限がある。

IoL (Institute of Linguists) は 1910 年に William Lacon Threlford という人物が海外貿易を扱う専門家を養成する目的で設立され、その後は彼の人脈と業績によって企業化されたが、2005 年 7 月にクイーンエリザベス 2 世に英国王室の認可を与えられ、同年 9 月から CIoL (Chartered Institute of Linguists) として稼働し始めた。その教育機関である IoL

Educational Trust (IoLET)を通じて、国家認証の職業資格や言語の実践者の基準を設けている。旧 IoL はコミュニティー通訳・翻訳コースを運営しており、大学にはない、急激に増加する移民の使用言語も扱っている。試験は伝統的なヨーロッパ言語であるフランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語とスペイン語に加え、ベンガル語、広東語、クロアチア語、ダリー語(アフガニスタン)、ファルシ語(イラン)、グジュラート語(インド)、ギリシャ語、ヒンディー語、ハンガリー語、ジャマイカ英語、クルド語、ラトビア語、リトアニア語、ポーランド語、パンジャブ語(インド、パキスタン)、ブラジルのポルトガル語、ヨーロッパのポルトガル語、パシュトー語(アフガニスタン)、ルーマニア語、セルビア語、スロバキア語、ソマリ語(ソマリア)、スワヒリ語、タミール語、タイ語、ティグリニヤ語(エリトリア)、トルコ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語に及ぶ。この試験の Diploma in Public Service Interpreting (DPSI) が NRPSI に登録される指標となる。IoL は翻訳の証明書も付与しており、オーストラリアの NAATI のプロフェッショナル養成によく似た試験を行っている。IoL 自身は認定を行わず、証明書をを得るためのトレーニングや試験を行う。ただし、公認言語者として5年間の見習い期間、大学修了書、翻訳・通訳技能の証明、3つの推薦を持つ者を登録してリスト化している。

試験の受験資格は年齢19歳以上で、特に教養や学歴は問われない。合格者に更新制度はない、

17) アイルランド

公用語はアイルランド語(ゲール語)と英語で人口は約476万人。

1986年に The Irish Translators' Association として設立され、2002年に Irish Translators' and Interpreter's Association となった ITIA が、アイルランドでは翻訳・通訳を代表する唯一のプロフェッショナルの非営利団体で、登録している通訳者や翻訳者をオンラインで探すこ

とが可能である。ITIA は翻訳者認定を行える権威ある組織で、翻訳者・通訳者の国家登録簿を兼ねる。会員のカテゴリーは学生からプロまでと幅広く、最高レベルの条件は大学院卒業で2年間の経験を有し、ITIA のプロレベルの試験に合格していることである。ITIA の会員になるには高等教育レベルのトレーニングを修了している必要があり、3つの総合大学に翻訳・通訳の大学院プログラムが存在する。

2方向で訳す通訳者のプロとして認められるためには、3年間のプロ経験、年に最低40時間の通訳活動、それらが請求書や証拠によって実証されなければならない。また会議通訳の場合は、3年間のプロ経験、年に最低20時間の会議通訳歴、それらが請求書や証拠によって実証可能であることとなる。ITIA は独自の試験を行う権利もある。

18) 南アフリカ共和国

公用語は英語、アフリカーンス語、バンツール諸語(ズールー語、ソト語ほか)合計11言語あり、人口は5495万人。このため南アフリカでは政治的、教育的ポリシーとして、13言語すべてに翻訳・通訳サービスを供給できるようにしている。

SATI (South African Translators' Institute) がボランティアに認定制度を始めており、認定された会員のみが SATI で投票権を持つ。この制度は広く認知されており、雇用される際には推奨や条件となっているが、認定なしで活動している者もいる。認定はプロフェッショナルレベルのみで行われていて、受験条件は3ヶ月以上会員であること以外には、アパルトヘイトの影響があるため学歴は問わない。プロの登録会員リストはデータベース化され、クライアントはオンラインです直接検索して本人にコンタクトを取り、直接仕事を依頼することができる。SATI は a) 翻訳、b) 宣誓翻訳、c) 同時通訳(会議)、d) 言語編集、e) ターミノロジー、f) 法人の認定(言語代理店や言語会社用)を認定している。通訳は会議通訳のみだが、試験では言語能力、文法、通訳

技術、内容の正確さ、プロとしての振る舞いなどが、録音され検証される。

SATI は国の権限を持たず、財源も限られているなかボランティアの働きに支えられており、6～7の翻訳・通訳コースを有すトレーニング施設との関係性は明らかでない。そのため、アラビア語、中国語、ロシア語に関しては NAATI の試験を取り入れたり、ATA の試験官ガイドを使用したりしている。

19) アルゼンチン

公用語はスペイン語で、人口は 4342 万人。宣誓翻訳者 (Sworn Translator) になるには語学試験に通り、4～5 年の大学コース (主に司法) か 3～4 年のコース (文系、理系、技術翻訳) を修了しなければならない。このことから、アルゼンチンでは翻訳者になるのに世界中でも高度な教育を課している国だといえる。しかしその言語は限られており、また通訳者に関しては、会議通訳のみの教育と利用できる称号の種類が少ない。宣誓通訳者はアルゼンチン国民であることと、プロフェッショナルとして全 23 州のなかで 9 つの法務局か小規模の衛星局に登録しなければならない。法務局がない州では直接裁判所に登録する。大抵の局は FAT (Argentine Federation of Translators) のメンバーである。つまりは、アルゼンチンで司法通訳者になる認定試験は存在せず、ライセンスや認定プログラムもないが、多くの場合は大学やプロフェッショナルの提携校の卒業証書で能力が証明される。他には FAT の共同創設者で非営利団体の CTPCBA (Colegio de Traductores Públicos De la Ciudad de Buenos Aires) が存在し、こちらも育成に力を入れているのは司法通訳だが、同時に他分野の講座も開講しており、医学に関しては 2011-2014 年にかけて、209 時間の医療の授業のコースや 28 週間の e-learning を設けている。

20) メキシコ

公用語はスペイン語で、人口は約 1 億 2701 万人。

翻訳・通訳業界は特定の機関にて整備されてはいないが、翻訳者・通訳者の多くは言語の学位か翻訳・通訳における学位を持っている。司法通訳に関しては宣誓通訳によって遂行されねばならず、Supreme Court of Justice がこれらを認証している。宣誓通訳者になるには、通訳の学位を有していること、最低 5 年のプロの経験があること、犯罪歴が無く品行方正であることが要求される。

OMT (The Mexican Organization of Translators) が経験値のある通訳者に対して認定試験を行っているが、これは国家認証ではなく、宣誓通訳者の認定とも認められていない。

現時点では ATA (American Translators Association) の英語 - スペイン語での試験を推奨している。

21) ブラジル

公用語はポルトガル語で人口は 2 億 784 万人。ABRATES (The Brazilian Translators Association) がプロフェッショナルとしての能力を測る試験を開発した。受験条件としては会員である必要があり、それには認可されたコースを修了していることや証明可能な活動経歴が必要となる。試験は 3 つのテキストからなり、辞書の持ち込みは許されているが、全体で 3 時間半かかる。テキストは文学、技術、医学 & 理系、法学 & 商業、一般知識に分かれており、受験者は分野を選ぶことができる。合格した人は ABRATES に登録すれば、10 年間有効である。

22) エジプト

公用語はアラビア語だが都市部では英語も通用する。人口は 9338 万人。翻訳・通訳業界でプロフェッショナルとして雇用されるには、大学の証明書が通常の指標となる。翻訳は大学レベルでは、13 大学で教えており、最も優れたトレーニング機関が The Arabic and Translation Studies of the American University of Cairo である。ここではアラビア語 英語の翻訳と通訳の認定書を発行している。

D. 考察

1. 全般的な翻訳・通訳認証

認証には大きく分けて二つの方法があることが判った。一つは5年制までの大学コースや大学院を修了することによる認証と、もう一つは試験による認証である。また認証のレベルとしては、通訳・翻訳をするうえで最低限必要とされる入門レベルに設定されている場合と、すでに現場で活躍している経験豊富な通訳・翻訳者の質を保证する認証に分かれる。

オーストラリア、カナダ、アメリカ合衆国、中国では政府の関連機関、または翻訳・通訳の専門機関が翻訳・通訳試験を運営しており、最低限の基本となる能力や実践力に対して認証を与えている。通常、これらは公式の試験で評価され、書類審査や経験値による認証は行っていない。歴史上、これらの国には研修センターが不足していたため、基本的な評価を試験で行うようになったと考えられる。試験により翻訳・通訳者に認証を与えることはその能力と活動が求められるレベルに達していることを示し、通訳・翻訳サービスを受ける側にも提供する側にも一定の指標となる。生産性あるサービスを提供する市場において、認証の有無は品質管理の観点からも重要である。

調査した22カ国中の6カ国に認証機関が存在しないのは、歴史的背景や政治的な理由があると考えられる。これらの多くは大学などの教育機関が通訳・翻訳技能の研修や標準レベルを設定しており、これらのコースを修了することで更なる認証は必要ないまま、通訳・翻訳者として働ける環境が整っていたからであろう。これは、オーストリア、ドイツ、ベルギー、スペイン、クロアチア、エジプト、に相当する。この仕組みは通訳・翻訳提供者と使用者が同国の大学にて同使用言語で研修を受けていることで成り立っていたが、1999年からEUで始まった"Bologna process"と呼

ばれる各国の大学教育レベルの共通化により、各大学による認証がヨーロッパの他国でも通用するような広がりを見せている。ただし、これらはヨーロッパの伝統的な言語である英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語等に限られており、マイナー言語においては認証する術がない。そのためこれらの需要はあっても、通訳・翻訳者の質が担保されないため、低額な報酬と満足度の低下につながっている。

認証への取り組みは、アメリカ合衆国やカナダなどの歴史が浅い国においては、必要に応じた実用的な方法が適応され、これに対してヨーロッパの古い国においては通訳・翻訳教育は、学術的で高度な技術としてとらえられていた。しかし近年、前者においては大学や専門学校に通訳・翻訳コースを多数設立するようになり、また後者は増加する移民対策として大学の既存コースの言語数を増やしつつ、国の補助金が不足するなか、地方においてもニーズにかられ翻訳・通訳研修を新たに設けている。

2. 医療通訳の認証

医療に特化した認証は、今回調査し得た範囲では、アメリカとスイスのみであり、他の認証制度を持つ国においては、いわゆるコミュニティ通訳の認証であり、世界でも医療通訳の認証制度は、まだ、少ないことが明らかになった。ただし、コミュニティ通訳者向けの医療分野の通訳研修は存在し、プロフェッショナルとして基本的な技能や倫理面を認定された通訳者が、その後ニーズに応じて専門的な知識を獲得していくという仕組みが多いことが判った。

3. 最近の世界の動向

最近の話題として、各国の通訳・翻訳教育や認証に携わる関係者を集めて将来的に国際コンソーシアムを設立し、そこで通訳・翻訳

認証の国際基準を設定し、認定者が国をまたいで活躍できるような仕組みを作る提案がなされている。各国を自由に行き来し易くなった時代に合わせて、国境を越えても通用する認証が求められている。この国際認証とは、各国の認証機関が行っている試験を同じにするのではなく、それぞれの認証の過程における必要条件を設定して統一するという意味である。

また ISO 委員会でも通訳のなかで医療は別格であるという考えから、最近、医療通訳企画が立ち上がった。

4. 日本における医療通訳

医療の現場においては、通訳者は患者の利益を第一に考え、会話の内容を十分理解したうえで、医療者と患者が安心してコミュニケーションを委ねられるよう動かなければならない。それには倫理の教育の徹底と臨機応変な対応法を習得する必要がある。日本の通訳者はフリーランサーが多く、医療通訳者としての倫理規定を学べないこともある。会議や商談の通訳は、「何も足さず、引かず、変えず」のルールが常識だが、チーム医療の現場では、医療過誤が起きないように各自がチェックし合い、患者に最良の医療を提供するよう努力するので、会議や商談の通訳のルールと異なる状況も生じうる。このため医療現場において、技能研修とともに、倫理教育を含めたトレーニングは不可欠であると考えられる。

認証における習得を評価すべき点は、豊富な医学知識の習得はもちろんであるが、医師による高度な説明を一般人である患者に判りやすく伝えるために介入する方法や、噛み砕いて説明できる技量など、通訳技術や、医療特有の医療チームとしての患者保護の考えや行動も重要と考える。勿論、間違いなく通訳する言語能力を有していることは大前提であるが、もともとバイリンガルが少ない日本において理想の通訳者の育成には、該当する言語の個人の力量が必要とされるかも知れない。従来、幼少時から複数の言語に接するという

機会の少ない日本においては、海外とは異なる日本に適した教育や認証の方法を考える必要があると考えられる。

参考文献：

1. Stejskal, J, Survey of the IFT (International Federation of Translators) Committee for Information on the Status of the Translation & Interpretation Profession, Geneva: International Federation of Translators, 2005
2. Jim Hlavac, A Cross-National Overview of Translator and Interpreter Certification Procedures, Translation & Interpreting Vol 5 No 1, 2013
3. Sandra Hale et al, Improvements to NAATI testing; Development of a conceptual overview for a new model for NAATI standards, testing and assessment, Project Ref: RG114318, The University of New South Wales, 2012
4. Turner, B & Ozolins, U, The Standards of Linguistic competence in English and LOTE among NAATI accredited interpreters and translators: A Review, Board of Directors of the National Accreditation Authority for Translators and Interpreters, 2007
5. An International Scan of Medical and Community Interpreter Certifications, Izabel E.T. de V. Souza, <http://www.drsouza.org/home2.html>
6. The National Board of Certification for Medical Interpreters <http://www.certifiedmedicalinterpreters.org/>
7. CCHI, <http://www.cchicertification.org/>
8. Kammarkollegiet <http://www.kammarkollegiet.se/en/search-authorised-interpreters>
9. IMDi <https://www.imdi.no/en/about-imdi/imdis-work/>
10. BDU <http://www.bdue.de/en/bdue/>
11. INTERPRET Switzerland, <http://www.inter-pret.ch/>
12. NAATI, <https://www.naati.com.au/>
13. ITIA <http://www.translatorsassociation.ie/>
14. ITI <http://www.iti.org.uk/>
15. NRPSI <http://www.nrpsi.org.uk/>
16. UTA <http://www.uta.org.ua/en>
17. SATI <http://translators.org.za/>

- 18. CTPBA <http://www.traductores.org.ar/>
- 19. CTPBA news
http://www.proz.com/forum/translators_associations/23265-news_ctpcba_sworn_translators_association_of_the_city_of_buenos_aires.html
- 20. CTPBA activity
http://www.fit-ift.org/wp-content/uploads/2014/04/17.5.-CTPBA_REPORT-FIT-2011-2014.pdf
- 21. OMT <http://www.omt.org.mx/>
- 22. ABRATES
<https://abrates.com.br/about-us/?lang=en>

E. 結論

1. 医療通訳者に特化した認証制度を運用している国は、調査した 22 カ国中アメリカ、スイス、スウェーデンのみであり、医療も含む全般的なコミュニティー通訳者・翻訳者を認証している国が上記も含め 17 ケ国あった。

2. 海外で通訳者・翻訳者の認証制度を持つ国は、歴史的、または、文化的に多民族国家であったり、異なる文化・言語を持つ人が共存していたりという背景があり、昔からヨーロッパで伝統的な言語である英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語等には対応できているが、近年ヨーロッパ以外の国からの移民や難民が話すマイナー言語にはニーズは高いが認証が追い付いていない。

3. 国によっては翻訳のみ認証していたり、通訳は司法通訳のみの認証であったりと海外でも統一されておらず、各国の背景やニーズに合わせて必要とされる分野が発達したと考えられる。

4. 翻訳・通訳の認証の方法は大きく分けて試験による方法と、大学や大学院などでの高等教育機関が育成を行ない、その修了書をもって認証とする方法がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 学会発表

- 1) 南谷かおり、医療通訳の認証にむけて「医療通訳の認証のあり方に関する研究」、国際臨床医学会、2016 年 12 月 14 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- 1. 特許取得
なし
- 2. 実用新案登録
なし

	1 オーストラリア	2 カナダ	カナダ (オンタリオ州)
公用語	英語	英語とフランス語	
人口	2413万人	3616万人	
コミュニティ通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	政府と全国8州が所有して任命された管理者が管理する非営利法人NAATI(The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)が翻訳・通訳・手話において116言語における認証と60言語の試験を行う。	・公用語が2言語あるため、大学レベルで翻訳・通訳プログラムが多数存在 ・原住民や移民が使用するインド語、中国語、バンジャビ語、イタリア語等はニーズが高い	・コミュニティ通訳者の認証を監督 ・司法、保健医療、教育、社会福祉事業の分野で雇用する場合にオンタリオ州以外でも指標となりつつある ・医療通訳者になるには、コミュニティ通訳の認定者であること、最低30時間の医療用語学習コースの修了と250時間の医療通訳実務経験が必要
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	国・州・地方の政府が共同で所有し、政府に任命された者が管理する非営利法人のNAATI(The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)	民間団体であるCTTIC(The Canadian Translators, Terminologists, and Interpreters Council)	OCCI(The Ontario Council on Community Interpreting)
設立または現在のシステム発足	1977年	1970年	2016年
認証内容、レベル	翻訳・通訳・手話 4レベル:パラプロフェッショナル(中等教育終了者)、プロフェッショナル(高等教育修了者)、高度翻訳者/会議通訳者、高度翻訳者&通訳者(シニア)	翻訳者、通訳者、ターミノロジスト(新しい用語を決定する専門家)、会議通訳者、司法通訳者	コミュニティ通訳者
認証獲得条件(審査内容)	1) NAATIの試験に合格する 2) NAATIが認証する国内の施設の翻訳・通訳コースを修了する 3) 海外(南アフリカ、バンクラディッシュ、中国、インド、フィリピン、シンガポール、イギリス、ギリシャ、イラン、サウジアラビア、UAE)の教育機関の、翻訳・通訳における高等教育の卒業資格と実務経験の証明 4) 海外の認可されたプロの翻訳・通訳団体の会員である証拠を提出 5) 翻訳・通訳教育の振替認定の証明(会議通訳のみ)		最低30時間の医療用語学習コースの修了と250時間の医療通訳実務経験
受験資格	パラプロフェッショナルの場合、オーストラリアの中等教育以上を修了して両言語に習熟していること。プロフェッショナル用の試験の場合、各分野で高等教育以上を修了しているか同言語のパラプロフェッショナル認定者		語学能力証明書、中等教育以上の修了者、CIU SAT, ILSAT等の通訳試験合格者、北米のプロフェッショナル協会の会員等
登録またはID等の発行	NAATI認定翻訳者はNAATIスタンプを使い、通訳者はNAATIのIDカードを身に着ける		
認証人数			
育成・養成の状況			
更新制度	3年毎の更新性		
更新条件	年に40時間以上の実務および規定された講義や活動で40ポイント以上を必要		年間10時間の教育プログラム受講

	3			
	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国
公用語	英語			
人口	3億875万人			
コミュニティー通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	現時点では、認証制度は州ごとに異なり医療通訳者が活動するのに必須ではなく、病院や企業が雇用する際の指標となっている	医療通訳認証を策定するために国内の14の開連団体を追加	IMIA (International Medical Interpreters Association)の特別部門としてNCCから離脱、独立して、独自に試験を作成し認証	National Boardと並行してNCCのオリジナルメンバー13人が設立
医療通訳の認証の有無、認証機関など	The National Council for Interpreting in Health Care	NCC (the National Coalition on Health Care Interpreter Certification)	The National Board of Certification for Medical Interpreters (National Board)	非営利で中立的なCCHI (Commission for the Certification of Healthcare Interpreters)
"医療通訳"以外の認証機関				
設立または現在のシステム発足	1994年	2007年	2009年	2009年
認証内容、レベル				
認証獲得条件(審査内容)			オンラインシステムで海外でも受験が可能	CoreCHIの筆記試験のみで資格を与えており、中国語、スペイン語、アラビア語のみ口頭試験を追加
受験資格			・年齢は18歳以上 ・英語の一定以上の能力、高卒以上、最低40時間の医療通訳訓練	・年齢は18歳以上 ・英語の一定以上の能力、高卒以上、最低40時間の医療通訳訓練
登録またはID等の発行				
認証人数				
育成・養成の状況				
更新制度 更新条件				

	4 スウェーデン	5 ノルウェー	6 フィンランド
公用語	スウェーデン語	ノルウェー語	フィンランド語とスウェーデン語（全人口の約4.5%）
人口	約1000万人	521万人	約550万人
コミュニティ通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	正式に多文化主義を掲げるスウェーデンは、すべての移民に対してコミュニティ通訳を含む通訳・翻訳サービスを提供	・国が認定する公認翻訳者になるには、認定試験の前に3年間の大学教育が必要 ・通訳認証試験は、移民に対するコミュニティ通訳の必要性から1990年初めて設けられた。後にアルバニア語、アラビア語、ベルシャ語、ソマリ語、トルコ語、ウルドゥー語が追加された	認定の通訳者・翻訳者になるには文部省とフィンランドの言語研究所から任命された審査委員会が運営する試験に合格する必要がある
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証がある	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	The Swedish Legal, Financial and Administrative Services Agency (Kammar kollegiet)	在留資格を持つ移住者や移民の多様性に対応するために設立された Norwegian Directorate of Integration and Diversity (IMDi) が試験と登録を行う	
設立または現在のシステム発足		2006年	
認証内容、レベル	認可通訳者・翻訳者（定められた言語では医療通訳と司法通訳も特別に認可あり）		・コミュニティ通訳検定試験は約半年かかるプロセス ・受講者の行動や考え、通訳の振り返りに基づくレポートを通じて適性や倫理面が厳しく評価 ・試験官立ち合いの元、両言語の運用能力や専門用語の習得、通訳技術や対応能力を、模擬通訳や遠隔通訳にて合否が判定
認証獲得条件（審査内容）	Kammar kollegietの監督下で高度なプロの試験を合格した通訳者・翻訳者、または政府機関に支持された高度教育機関が提供する通訳プログラムを終了した修練済み通訳者を認可		
受験資格			EUまたはEuropean Economic Areaに居住していることが条件
登録またはID等の発行			
認証人数			
育成・養成の状況	1986年からストックホルム大学に設立されたthe Tolkochoversattarinstitutet (Institute for Interpretation and Translation Studies)が通訳トレーニングを全面的にまかされてきたが、現在では他にも大学における教育コースや成人教育センターの職業教育がその役目を担っている		・翻訳者・通訳者の養成はヘルシンキ、タンペレ、トゥルク、ヴァーサの4大学にトレーニングセンターがあり、大学院プログラムを提供 ・成人教育センターが存在し、様々な職種の職業トレーニングを低価格で提供 ・タンペレ成人教育センター（TAKK）では、2005年からコミュニティ通訳者、2010年のEU加盟に伴い2015年からは司法通訳者の養成を行う。医療通訳に関しては、養成コース内に通35時間の授業を7週間で設定。コースを受講するには、与えられた課題の評価、面接、筆記と口頭による語学試験があり、採用には応募者の適性も判断され、通訳に向いてない場合は他の職種を勧められる。
更新制度			
更新条件	5年		司法通訳に関しては試験とプロとしての活動年数が求められ、5年で更新が必要

	7 オーストリア	8 ベルギー	9 ドイツ
公用語	ドイツ語	オランダ語、フランス語、ドイツ語	ドイツ語
人口	870万人	1135万人	8177万人
コミュニティ通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストリー・ハンガリー帝国時代から多言語国家 ・第二次世界大戦後にウィーンとグラーツ大学に2つの通訳・通訳センターが設立され、後にインスブルック大学にも設けられた ・司法通訳以外は特に認定は存在しない ・各大学の通訳・通訳センターの教育を修了したことが公認の専門家の証であり、名刺にも記載できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年以前には翻訳者・通訳者の正式な認定は存在しなかった ・ベルギーの法律では、裁判所に行く前に国民は自分の言語を申し込めるようになっており、そのため各裁判所は独自に通訳者を認定して登録しているが、正式な国家認定の翻訳者・通訳者はおらず、法律によって守られていない ・コミュニティ通訳者の配置とその試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・自称翻訳者・通訳者の活動が法的に認められているが、高等教育を受けた大学の翻訳・通訳センターの卒業の方が好まれる。 ・翻訳・通訳センターはハイデルベルグ大学（設立1930年）、ライプチヒ（設立1953年）、マインツ・ゲルマースハイム（設立1947年）、ザールブリュッケン（設立1948年）に存在し、これらの成績証明書は広く認知されている。 ・プロフェッショナルの団体である the Federal Association of Interpreters and Translatorsの会員になるには、ドイツまたは国外でこのような通訳・通訳コースを修了している必要がある ・他のヨーロッパの国と同様に、通訳・通訳は法的に認められた正式な職業ではないが、公式に認定された翻訳者・通訳者は法的に守られており、この称号を汚した場合には罰金を課せられる
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	認証機関は存在しない	認証機関は存在しない	認証機関は存在しない <ul style="list-style-type: none"> ・約15の通訳・通訳専門家協会があり、厳しい条件のもと会員を登録 ・最大の協会は1955年設立の国の機関でベルリンの本部と12の地方支部があり、7500人以上会員でドイツ全土の翻訳者、通訳者の80%を登録
設立または現在のシステム発足		2004年	
認証内容、レベル			
認証獲得条件（審査内容）		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ通訳者は、サイトトランスレーション、通訳、倫理を含む 	
受験資格		<ul style="list-style-type: none"> ・司法通訳者になるには21歳以上で犯罪歴が無いこと、言語能力の証明が必要 ・コミュニティ通訳者受験資格は2言語における能力試験と102時間のトレーニングが必要 	
登録またはID等の発行			
認証人数			
育成・養成の状況		通訳・通訳トレーニングの歴史は長く、アントワープ、ブリュッセル、ゲントの大学には定評のあるセンターが存在し、卒業者の技量は社会的に認知されている。センターでは公用語であるオランダ語とフランス語の他に、ヨーロッパに共通の英語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語がある。ゲントでは最近移民のためにチェコ語、ロシア語、トルコ語を追加した	全国で約20の高度教育機関が通訳・通訳養成プログラムを提供
更新制度			
更新条件			

	10 オランダ	11 スイス	12 スペイン
公用語	オランダ語	イタリア語、オランダ語、フランス語	公用語はスペイン（カスティージャ）語
人口	1710万人	約824万人	約4646万人
コミュニティー通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	<ul style="list-style-type: none"> 司法翻訳者・通訳者になるには、各自のオランダ語と対応言語の言語能力の証明と、品行方正であるという宣誓が必要となる。 司法翻訳者・通訳者は試験を受ける必要はないが、法務省が認定するトレーニングを修了し、SGV(Dutch Court Interpreters and Legal Translators Association)の会員でなければならない 	<p>1999年に政府の補助機関であるINTERPRET (The Swiss Association for Translation and Intercultural Mediation)が国内における多文化コミュニケーションを取り持つ通訳者のレベルの標準化を図る目的で設立され、通訳のトレーニングや認証のガイドラインを策定している。通訳者の認定は認定委員会が行っており、育成や運用は別の機関が担っているが、INTERPRETはこれらの組織の評価を行う上部組織である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドイツやオーストリアのように大学による資格証明が翻訳・通訳市場では専門家である基準 別の資格として、外務省と言語研究室から付与される宣誓翻訳者・通訳者 Sworn Translators and Interpreters
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	<ul style="list-style-type: none"> Federal Office of PublicHealthの支持と Swiss Federation for Adult Learning (SVEB) の協力を得て INTERPRET (The Swiss Association for Translation and Intercultural Mediation)が2004年から認定している 	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	NGTV(the Netherlands Society of Translators and Interpreters)というプロの翻訳通訳協会 SGV(Dutch Court Interpreters and Legal Translators Association)は司法翻訳・通訳のみを登録		認証機関は存在しない
設立または現在のシステム発足	1956年（NGTV）	1999年 同組織が2004年から通訳の認証を開始	
認証内容、レベル		<ul style="list-style-type: none"> 育成や運用は別の機関が担っているが、INTERPRETはこれらの組織の評価を行う上部組織である。各組織が行う認定試験内容、授業内容、講師や認定者のレベルチェック、育成機関や研修先の医療機関を調査し、問題があれば是正勧告を行う 	
認証獲得条件（審査内容）		<ul style="list-style-type: none"> 受験希望者は年齢が20歳以上で言語能力がヨーロッパ基準のCFER B2以上、加えて150時間以上の教育訓練と最低50時間の異文化間実務通訳経験が必要 書類審査と、電話連絡にて課題を与えて適切に通訳できるか判定する試験 	
受験資格		<ul style="list-style-type: none"> 受験希望者は年齢が20歳以上で言語能力がヨーロッパ基準のCFER B2以上、加えて150時間以上の教育訓練と最低50時間の異文化間実務通訳経験が必要 	
登録またはID等の発行		2009年からはcross-cultural translatorsとして国が発行するIDカードが付与される	
認証人数	NGTVの会員は70言語で1600人	全国から年間50～80人の医療通訳者を認証しており2004年以降で1000人以上	
育成・養成の状況	<p>大学や高等教育施設で5つの翻訳・通訳プログラムを提供しているところがあり、そこには昔から西ヨーロッパの言語が含まれていたが、最近では北アフリカ、中東、東ヨーロッパからの移住者用に言語が追加2001年からは入国管理局や法務局のサポートにより司法通訳用のコミュニティー通訳トレーニングプログラムが設立され、2007年には Sworn Translators and Interpreters の条例が通り、新たな部署が設けられた。</p>		<p>全国の複数の大学で3～4年の翻訳・通訳トレーニングプログラムが設定されており、さらに5つの大学においてはMasterコースも設けられている</p>
更新制度			
更新条件			

	13 クロアチア	14 ウクライナ	15 中国
公用語	クロアチア語	ウクライナ語だが、ロシア語なども併用	漢語（中国語）
人口	約428万人	4250万人	約13.76億人
コミュニティー通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	<ul style="list-style-type: none"> 大学の言語学科に通訳・通訳プログラムを設置することが代々受け継がれているが、通訳・通訳分野は整備されておらず、多くはこれらの大学の卒業生だが、正式なトレーニングや試験を受けていない者も少なくない 大学の卒業証書を持っており通訳経験も5年以上あるプロフェッショナルだけを登録する協会がある 会議通訳についてEUに参加したことで同時通訳のニーズが増え、2005年にはザグレブ大学に養成コースが開講。会議通訳者に関しては1974年から学会が設立されており、そこでは大学での4～5年コースを修了し、現場経験と推薦状を持つ通訳者を受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> The Ukraine Translators Associationが試験 会員になるには厳格な審査を通らなければならない。通訳者に関しては、最低100時間の通訳実績と依頼人側からの推薦が2通必要 	<ul style="list-style-type: none"> CATTI (China Accreditation Test for Translators and Interpreters)
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	認証機関は存在しない	The Ukraine Translators Association	CATTI (China Accreditation Test for Translators and Interpreters)
設立または現在のシステム発足		1999年	
認証内容、レベル		通訳・翻訳	
認証獲得条件（審査内容）		試験は通訳・通訳の分野における一流の専門家たちで構成された委員会によって行われる。翻訳は3時間の試験。	
受験資格			
登録またはID等の発行			
認証人数			
育成・養成の状況			
更新制度			
更新条件			

	16 イギリス	イギリス	イギリス
公用語	公用語は英語（ウェールズ語、ゲール語等使用地域あり）		
人口	6511万人		
コミュニティ通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	1986年設立のITI（Institute of Translation & Interpreting）は、経験値によって、ヨーロッパ中で英語を話す国の通訳・通訳者をレベル別に会員分けしている。	ポランディアで独立した非営利団体であるNRP S(National Register of Public Service Interpreters)が、国で公共サービスを専門とするプロの通訳者たちを統制し登録している。国で登録している通訳者たちは、誰もが無料でオンラインで検索できる。	IoLはコミュニティ通訳・翻訳コースを運営しており、大学にはない、急激に増加する移民の使用言語も扱っている。試験は伝統的なヨーロッパ言語であるフランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語とスペイン語に加え、ベンガル語、広東語、クロアチア語、ダリー語（アフガニスタン）、ファルシ語（イラン）、グジュラート語（インド）、ギリシャ語、ヒンディー語、ハンガリー語、ジャマイカ英語、クルド語、ラトビア語、リトアニア語、ポーランド語、パンジャブ語（インド、パキスタン）、ブラジルのポルトガル語、ヨーロッパのポルトガル語、バシチュー語（アフガニスタン）、ルーマニア語、セルビア語、スロバキア語、ソマリ語（ソマリア）、スワヒリ語、タミール語、タイ語、ティグリニヤ語（エリトリア）、トルコ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語に及び、この試験の Diploma in Public Service Interpreting (DP S)がNRP Sに登録される指標となる。
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	ITI (Institute of Translation & Interpreting)	NRP S(National Register of Public Service Interpreters)	Chartered Institute of Linguists(CIoL)以前はIoL。IoLは1910年に海外貿易の専門家を養成する目的で個人によって設立され、その後会社にまでなったが、2005年にクイーンエリザベス2世に英国王室の認可を受けて、新たにCIoLとして稼働し始めた。その教育機関である IoL Educational Trust (IoLET)を通じて、国家認証の職業資格や言語の実践者の基準を設けている。
設立または現在のシステム発足	1986年	1993年に刑事裁判のご意見番である英国審議会の推奨で1994年に発足し、2011年にIoLから独立した。	1910年
認証内容、レベル	翻訳・通訳・会議通訳		
認証獲得条件（審査内容）	通訳者：学位または同等の資格と3年間のぶるとしての経験、もしくは学位がなくても6年間のプロの経験。能力とよい評価の第3者からの推奨。ITI会員による面接に合格すること。		
受験資格			
登録またはID等の発行			
認証人数	100言語で3000人以上	101言語で2350人以上	57か国で6000人
育成・養成の状況	通訳者には2種類のオンラインコースを実施。		
更新制度		1年更新	
更新条件		登録時と同様の内容の証明	

	17	18	19
	アイルランド	南アフリカ共和国	アルゼンチン
公用語	アイルランド語（ゲール語）と英語	英語、アフリカーンス語、バンツール諸語（ズールー語、ソト語ほか）合計11言語	スペイン語
人口	476万人	5945万人	4342万人
コミュニティー通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	1986年にThe Irish Translators' Associationとして設立され、2002年に(Irish Translators' and Interpreter's Association)となったITIAが、アイルランドでは通訳・通訳を代表する唯一のプロフェッショナルの非営利団体。登録している通訳者や翻訳者をオンラインで探すことが可能。	SATI (South African Translators' Institute)がボランティアに認定制度を始め、認定された会員のみがSATIで投票権を持つ。この制度は広く認知されており、雇用される際には推奨や条件となっているが、認定なしで活動している者もいる。認定はプロフェッショナルレベルのみで行われており、プロの登録会員リストはデータベース化され、クライアントはオンラインです直接検索して本人にコンタクトを取り、直接仕事を依頼することが可能。	
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し。 司法通訳は認証している。	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
"医療通訳"以外の認証機関	ITIA (Irish Translators' and Interpreter's Association)	The South African Translators' Institute (SATI)	FAT (Argentine Federation of Translators)
設立または現在のシステム発足	1986年にThe Irish Translators' Associationとして設立され、2002年に(Irish Translators' and Interpreter's Association)となった		1998年
認証内容、レベル		翻訳、宣誓翻訳、同時（会議）通訳、言語編集、ターミノロジー、法人の認定（言語代理店や言語会社用）。手話通訳。	
認証獲得条件（審査内容）		アパルトヘイトの影響もあるため、学歴は問わず、SATIの実地試験に合格すればよいとする。 通訳は会議通訳のみだが、試験では言語能力、文法、通訳技術、内容の正確さ、プロとしての振る舞いなどが、録音され検証される。	
受験資格		SATIの試験を受けるには、最低3ヶ月の会員層と現在も加入していることが必要。	
登録またはID等の発行			
認証人数			
育成・養成の状況			
更新制度			
更新条件			

	アルゼンチン	20 メキシコ	21 ブラジル	22 エジプト
公用語		スペイン語	ポルトガル語	アラビア語
人口		1億2701万人	2億784万人	9338万人
コミュニティー通訳、通訳・翻訳の認証に関する特色	非営利団体のCTPCBA (Colegio de Traductores Públicos De la Ciudad de Buenos Aires) がPublic Translatorになるための色々な講座やフォーラムなどを提供しており、翻訳者・通訳者を登録している。CTPCBAが行っている講座では2011-2014年にかけて医療分野で、209時間の医療のコースや28週間のe-learningを設けている。	OMT (The Mexican Organization of Translators)が経験値のある通訳者に対して認定試験を行っているが、これは国家認証ではなく、宣誓通訳者の認定とも認められていない。OMTは講座やワークショップ等を開催している。	非営利団体で翻訳者・通訳者のボランティアで構成される ABRATES (The Brazilian Translators Association)が、独自に講座や試験を設けて合格した基を登録している。	認証はなく、通訳者・翻訳者として雇用されるには大学の通訳・翻訳コースを卒業していることが指標となる。
医療通訳の認証の有無、認証機関など	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し	医療通訳の認証は無し
“医療通訳”以外の認証機関	非営利団体のCTPCBA (Colegio de Traductores Públicos De la Ciudad de Buenos Aires) The International Federation of Translators (FIT)のメンバーでもあり、FAT (Argentine Federation of Translators)の共同創設者。	OMT (The Mexican Organization of Translators)	ABRATES (The Brazilian Translators Association)	The Arabic and Translation Studies of the American University of Cairoが一番定評がある。他にも13大学に翻訳コースがある。
設立または現在のシステム発足		1992年	1970年	
認証内容、レベル				
認証獲得条件(審査内容)		経験値のある通訳者に対して認定試験を行っているが、これは国家認証ではなく、宣誓通訳者の認定とも認められていない。現時点ではATA (American Translators Association)の英語-スペイン語での試験を推奨している。	試験は3つのテキストからなり、辞書の持ち込みは許されているが、全体で3時間半かかる。テキストは文学、技術、医学&理系、法学&商業、一般知識に分かれており、受験者は分野を選ぶことができる。	
受験資格			認可されたコースを修了していることや証明可能な活動経歴が必要	
登録またはID等の発行				
認証人数	34言語で5950人			
育成・養成の状況				
更新制度			10年	
更新条件				

